

身体のネジレを計測・緩和する装置を研究・開発

合同会社 EASE 創研 奈良県生駒市

合同会社 EASE 創研（代表社員：鳥居宏次氏）は、奈良先端科学技術大学院大学発のベンチャー企業。2007年に大学で開始した「からだプロジェクト」の成果を引き継ぎ、健康に関するデータを可視化することを目標として2008年に設立された。同社は、身体のネジレを計測する装置とネジレを緩和する装置を研究・開発し、腰痛など筋骨格系疾患の治療に役立つ仕組みの実用化を進めている。

人には利き足や利き腕があることから、普段の生活の中で、足を組んだりカバン等を肩に掛けたりする行為の頻度が左右で違う。こういったことが原因で身体への負荷のかかり方がアンバランスになって、知らず知らずのうちにネジレを生じさせている。

身体のネジレが肩こりや腰痛を引き起こす要因のひとつであると指摘されているが、これまで、ネジレの状態を簡単に測定できる装置はなかった。そのため、施術を受けた後の効果がどの程度なのかかわからず、「身体が楽になった」といった感覚的なものに留まっていた。もし「ネジレの状態はどの程度なのか」、リハビリや施術後に「どれくらい良くなったのか」が定量的にわかれば、左右の負荷のバランスを意識した生活をするだけでネジレを予防することができる。また、改善の効果が数値でわかれば、本人の健康増進や回復への意欲も向上する。

同社が開発した身体のネジレ計測装置（特許取得済）は、装置の上に乗るだけで身体のネジレ度合いを計測することができる。計測にあたり脱衣の必要はなく、誰でも簡単に測定することができる。また、特許出願中の「くるくるレッグ」は、装置に片足を乗せ自力で円盤を回転させることによって股関節に適度の回転を与えるもので、自分

自身で手軽に身体のネジレを緩和できる。

測定装置の利用先としては「スポーツクラブ」「鍼灸マッサージ・整骨・整体院」「リハビリ、介護施設」などが想定され、緩和装置はこれらに加え一般家庭での使用も視野に入れている。

合同会社 EASE 創研は技術の移転を目的としており、装置の特許や技術ノウハウ等の知的財産権について製造・販売会社とライセンス契約を結び、ライセンス料を受け取る。製造・販売会社は、自社で装置を製造してスポーツクラブや整体院などに販売またはリースするという流れだ。

装置の研究・開発は完了しており、2014年度末で実証実験を終了。2015年度以降は、実用化に向け本格的に技術移転を進めていく予定である。

（丸尾尚史）



身体のネジレ計測装置（左）と緩和装置「くるくるレッグ」（右）

合同会社 EASE 創研

〒630-0101 奈良県生駒市高山町 8916-12

高山サイエンスプラザ 3F

TEL/FAX：0743-61-5010

URL：http://www.easesoken.com